

災害時に子どもたちが果たした 役割の記録

～ 2018年西日本豪雨の経験から～

【第3回】子どもたちの災害後の活動における 安全確保について

「片付けを手伝う時は、軍手、マスク、保護メガネ、
スコップ、トラックがあると便利。」

(岡山県・中学生)



「作業中の熱中症防止のために、塩分や水分の調達。」

(兵庫県・高校生)



「少しでも手を抜いたらケガにつながる恐れがあるので大変だった。」

(兵庫県・高校生)



「泥とかだと、感染症が心配。小さい子どもにうつって
危険な状態になってしまうかもしれないので、衛生を
専門としている人たちがいるといいと思います。」

(兵庫県・高校生)



支援物資を
運んだ。



“子どもたちの声を防災に” 詳細はこちら
<https://www.savechildren.or.jp/lp/kiroku/>

中高生
世代 8

被災地支援

兵庫県

年齢 当時 16 才(高校 2 年生) いつ頃 2018 年 8 月頃

どこで 岡山県 一般家庭

だれと 舞子高校

どんな活動をしましたか？ 被災した岡山県の方まで足を運んで、浸水した家の土壁の土の撤去作業を行いました。

なぜ、それをやろうと思いましたか？ 隣の県で、小さいころから何回か行ったことのある所が被害にあわれて、何かできないかなと考えているときに、学校で募集がかかったので、参加することに決めました。

やってどう思いましたか？ 思っていた以上の肉体労働でした。休けい時以外は基本的に立ちっぱなしで、楽ではなかったです。また、作業中に上から土のかたまりが落ちていたり、そもそも床が無い部分があったりの危険が多く、二次災害が起こってもおかしくない状態でした。だから、常に気を張っておかないといけないと感じました。

周囲の反応はどうでしたか？ 「来てくれてありがとう」という言葉をいただきました。

気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと 中途な状態で被災地に行くことの危険さを伝えたいです。災害にあってしまった所には危険な場所が多くあります。服は長袖で、ヘルメットは絶対かぶって、マスクもして、などと、万全な状態で行かなければ、自分の命を犠牲にしてしまう可能性があります。だからこそ、伝えたいです。

避難するとき/避難所にあるとよいもの 復興作業で使えるマスク、軍手、等の保管がもっとあれば、支援側の負担が小さくなると思いました。

どんな応援があったらよかったか カッター、はさみ、スコップなどの器具類が現地にもっとあれば作業がもっとスムーズに進むのではないかと思います。